

県市統合新病院の基本設計概要を発表

兵庫県と西宮市は11月19日、県立西宮病院と市立中央病院を統合再編新病院について、基本設計の概要を明らかにしました。これまでの診療機能を維持・充実するとともに、地域医療に関わる人材育成の拠点病院としての役割を果たし、西宮市域及び阪神圏域において安定的・継続的に医療を提供するとしています。名称は「県立西宮総合医療センター」(仮称)とし医療用の3棟を建設、2022年12月頃に着工、2025年度下期の開院を目指しています。

◆新病院の基本方針

- ・高度急性期・急性期医療の提供
- ・救命センターとしての役割
- ・先進医療への対応
- ・感染症対応機能の充実・強化
- ・AI・ICTの活用
- ・医療従事者の育成拠点
- ・災害に強い病院
- ・安定した経営基盤の確立



◆感染症対応機能の充実

- ・平常時は一般患者に対応しつつ、感染症流行時は感染症患者の受入れが可能となるよう、専門の入り口・エレベーターや陰圧室を配した専用診療室・病室等を整備する。
- ・感染拡大のフェーズに応じた病床拡大を可能とするゾーニングと空調設備計画(休止病床の抑制による感染対応と通常医療の併存を可能とする計画)になっています。

◆新病院基本設計

新病院は県立直営になり、アサヒビール西宮工場跡地に新設。現在の2病院の診療機能に脳神経内科、心臓血管外科、精神科を加えた計35診療科となります。

高度急性期・急性期医療に対応するほか、感染症対策の機能も持たせます。

地上11階建てで、屋上にはヘリポートを設置。

1～4階に救急や外来、医局、手術室等を配置し、5～10階が病棟となります。

◆新病院の規模

- (1) 診療科目 35 診療所
- (2) 病床数 552 床(一般病床 544 床、精神病床 8 床)

さらなる病床増を

第4波、第5波時にコロナ感染者が急増し、本市でもたくさんの方が入院できずに自宅待機となり、全国では自宅で亡くなるという最悪の事態も報告されました。コロナは未だ終息せず、また、新たな感染症が発生する恐れもあることから、党議員団は、公的病院の役割を果たせるよう、病床数(552床)をさらに増やすことを求めています。

今度は

小学校・市立高校体育館にエアコン設置

2018年12月議会に新日本婦人の会から、「小・中・高校の体育館にエアコン設置を要望する請願」が出され全会一致で採択されました。

その後、2020年度末までに、まず、全中学校の体育館にエアコンが設置され、市教委は、今年の夏、空調効果についての調査を実施しました。

体育館の室温は外気温より平均で2.0度～2.5度低下し、窓を締め切った状態では約5度低下することが確認されました。結果、「部活動の練習効果が上がった」「活動制限がなくなった」等を確認しました。

これらの結果、教育活動に一定の効果があることや大規模災害時における避難所の環境改善にも期待できることなどが確認され、小学校と市立高校体育館にエアコンを設置すると報告がありました。

事業費は19億1,700万円で、2022年度から工事を開始し、各年度10校程度工事を進め、可能な限り2025年度までに整備を完了するとのことです。

